

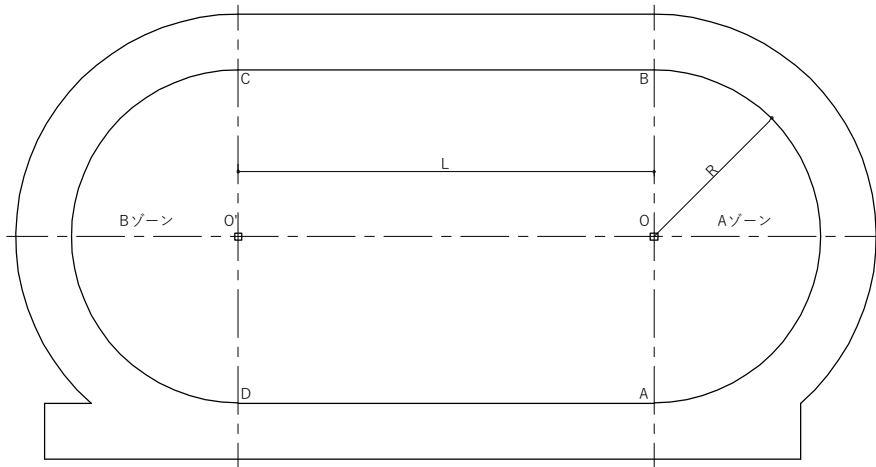
概要

- 古代オリンピックを起源として、「走る」、「跳ぶ」、「投げる」を基本運動とした陸上競技は、現代においてもスポーツの花形で、各種スポーツの基礎をなしており、世界的に競技人口も多い。オリンピックや我が国の国民体育大会では、開会式や閉会式が陸上競技場でおこなわれるなど、スポーツ施設として中心的存在でもある。

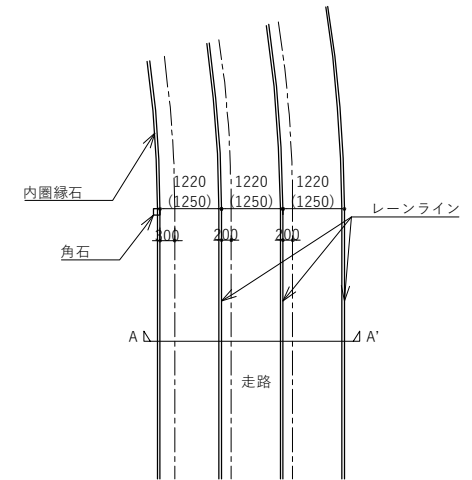
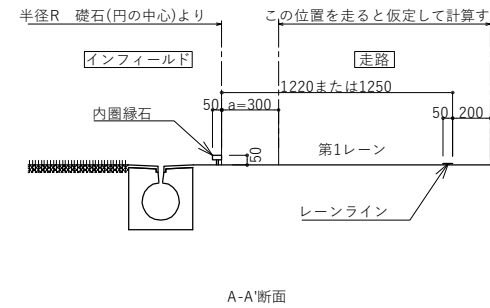
寸法

トラックの基本型による距離の計算方法

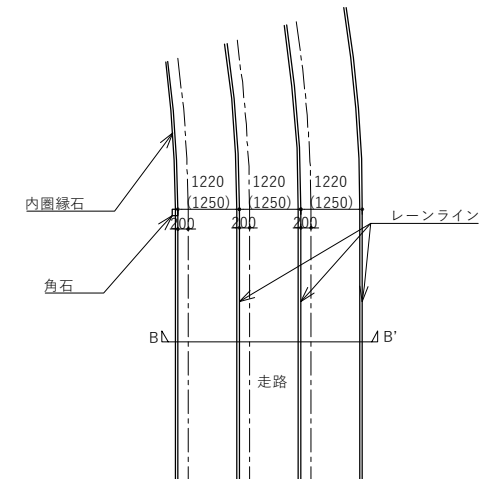
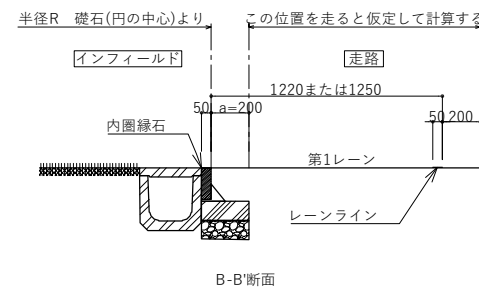
- トラックの基本型である単心円型トラックの場合、設計上のトラック一周の距離は次式により計算される。
一周の距離 = 直線部距離 + 曲線部距離 = $2 \times L + 2 \times \pi \times (R+a)$
ここで、L：礎石間距離(下図O~O'間の距離)
R：曲線部半径(礎石と角石または線石間の距離)
a：内圍縁石が走路より5cm高い場合0.3m、内圍縁石が走路と同レベルの場合0.2m



- 公認競技場として認定を受けるための検定実測では、特に曲線部においては礎石から内圍縁石までの距離を20ヶ所以上で半径を測定し、その平均値を計算半径Rとして一周の距離を計算した結果が公認種別ごとに定められた許容公差内でなければならない。マイナスは認められない。(円周率： $\pi = 3.1416$ とする)
- 距離の公差は、第1種~第3種+1/10000以内、第4種+各40mm以内とする。



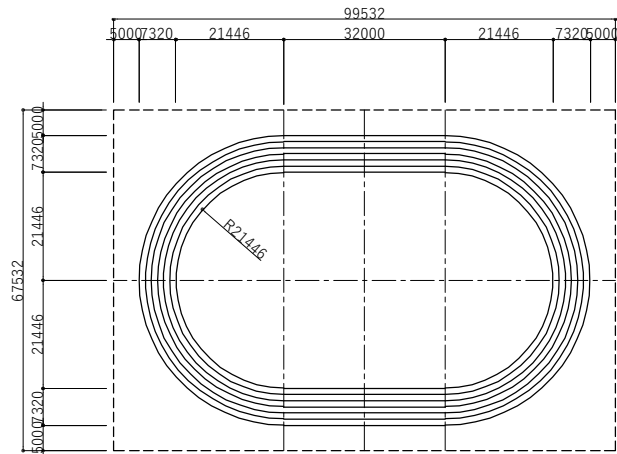
内圍縁石と走路に段差がある場合(第1、2、3、4種)



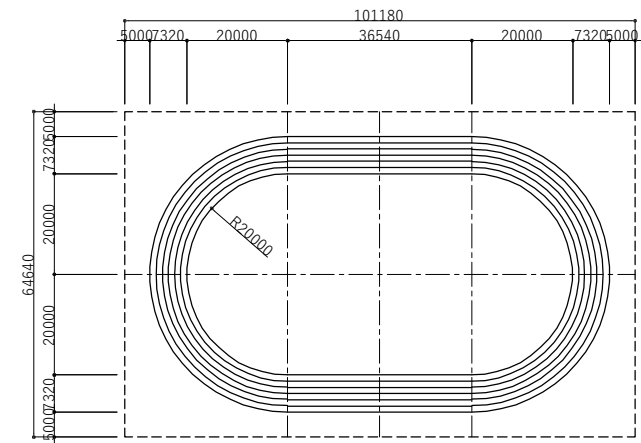
内圍縁石と走路に段差がない場合(第4種)

陸上競技（2）200mトラック S=1/1500

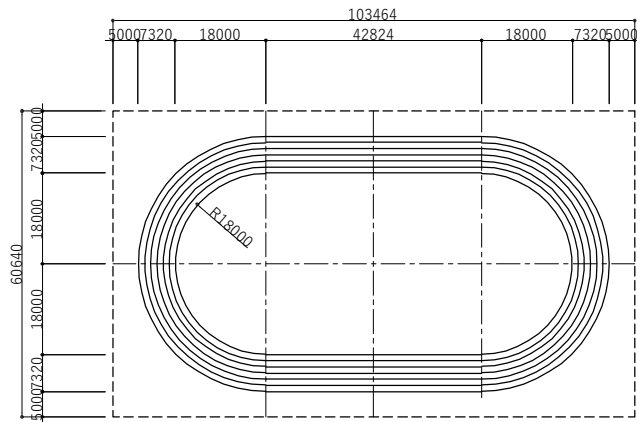
※縁石と走路が同レベルの場合のトラック基本寸法を示す。



200mトラック6コース (L32.000 R21.446) A=6,721㎡



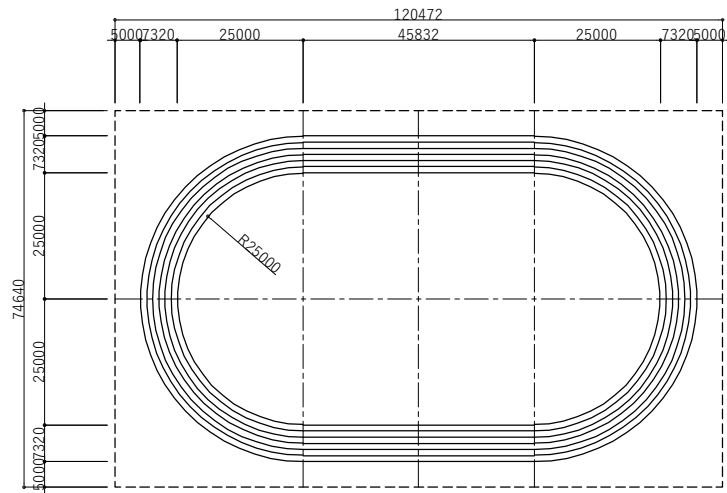
200mトラック6コース (L36.540 R20.000) A=6,540㎡



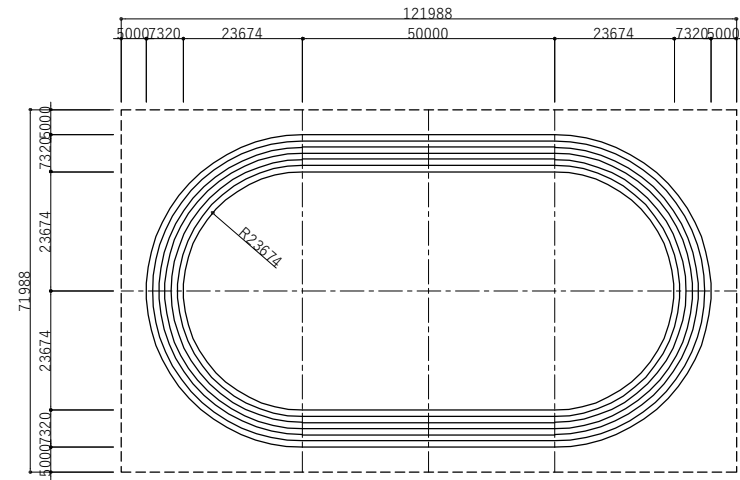
200mトラック6コース (L42.824 R18.000) A=6,274㎡

陸上競技（3）250mトラック S=1/1500

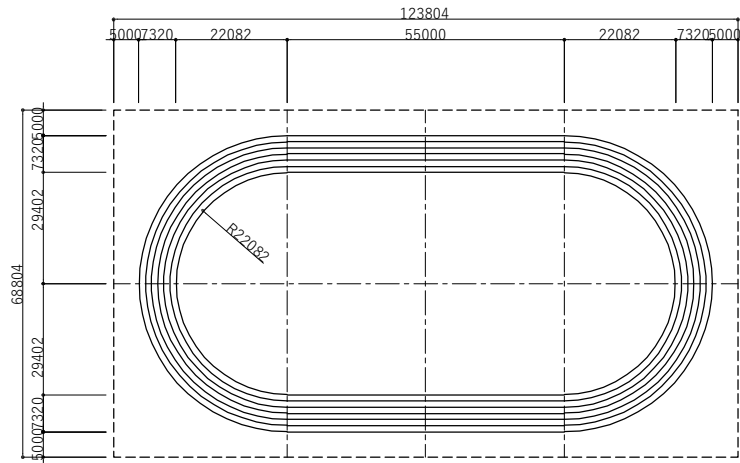
※縁石と走路が同レベルの場合のトラック基本寸法を示す。



250mトラック6コース (L45.832 R25.000) A=8,992㎡



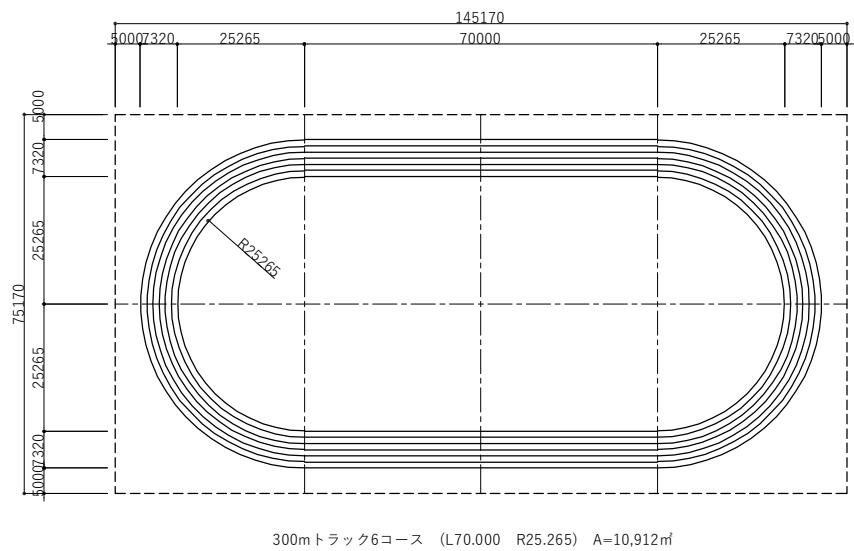
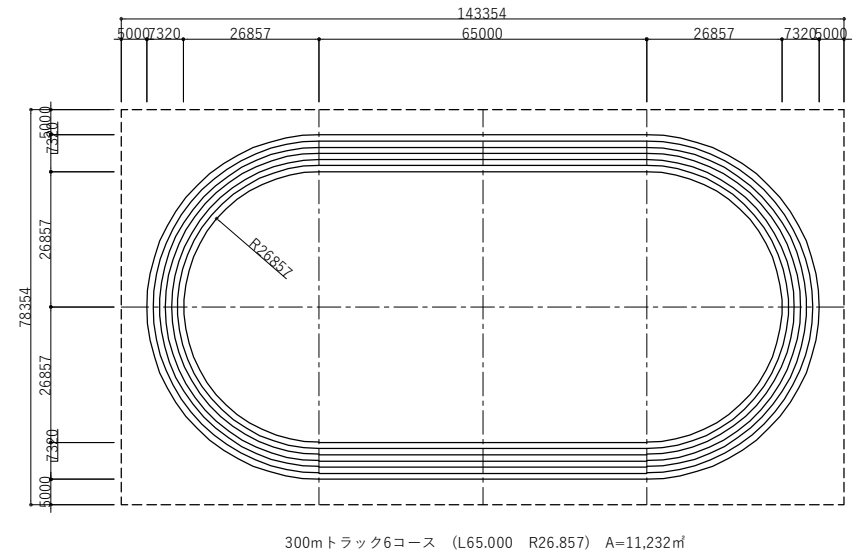
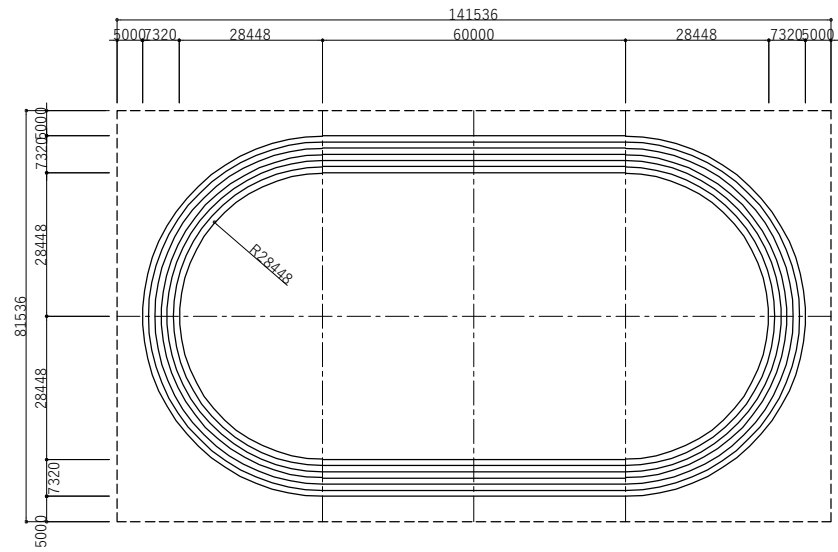
250mトラック6コース (L50.000 R23.674) A=8,781㎡



250mトラック6コース (L50.000 R22.082) A=8,518㎡

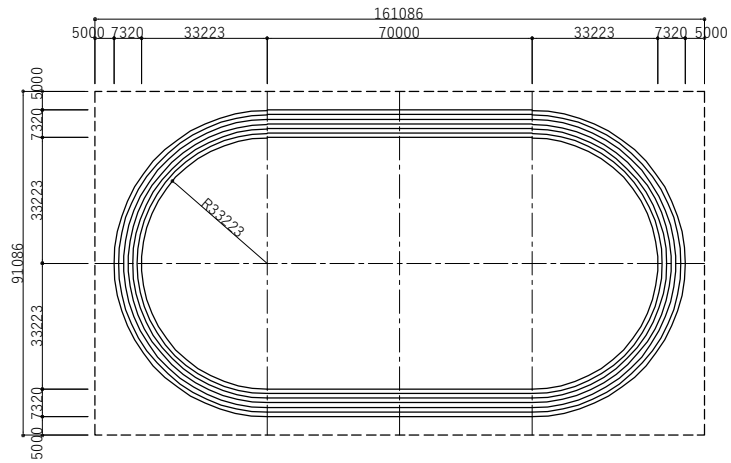
陸上競技（４）300mトラック S=1/1500

※緑石と走路が同レベルの場合のトラック基本寸法を示す。

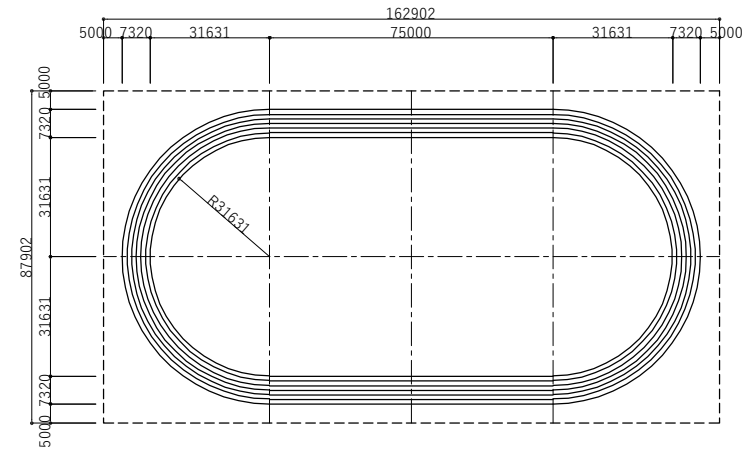


陸上競技場（5）350mトラック S=1/2000

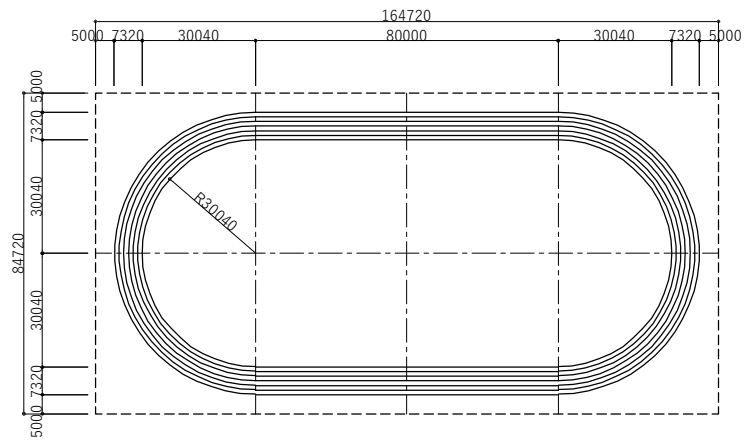
※縁石と走路が同レベルの場合のトラック基本寸法を示す。



350mトラック6コース (L70.000 R33.223) A=14,672㎡



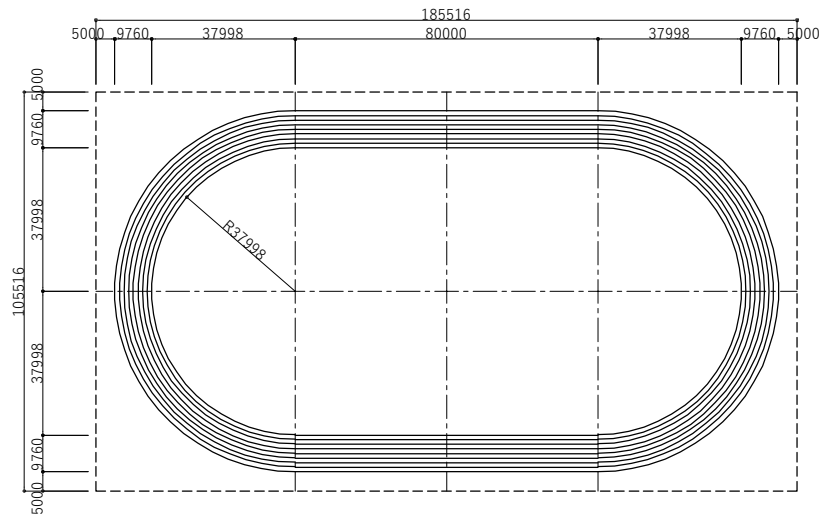
350mトラック6コース (L75.000 R31.631) A=14,319㎡



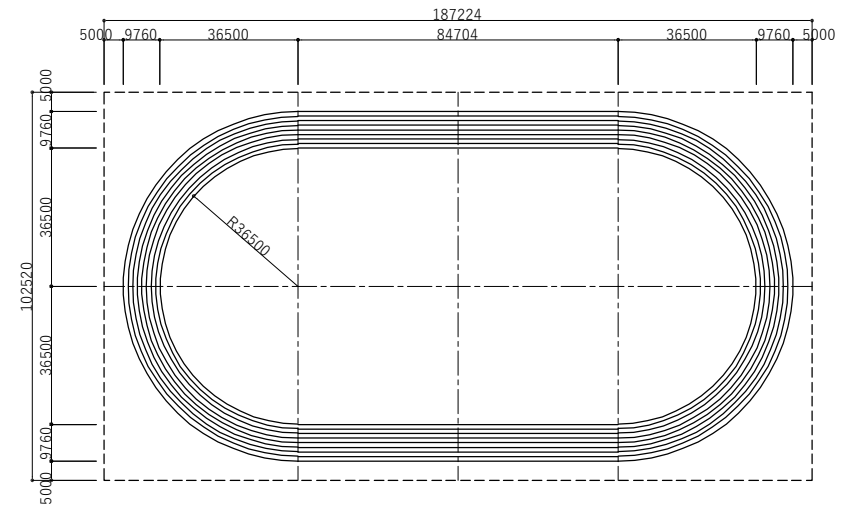
350mトラック6コース (L80.000 R30.040) A=13,955㎡

陸上競技場（6）400mトラック S=1/2000

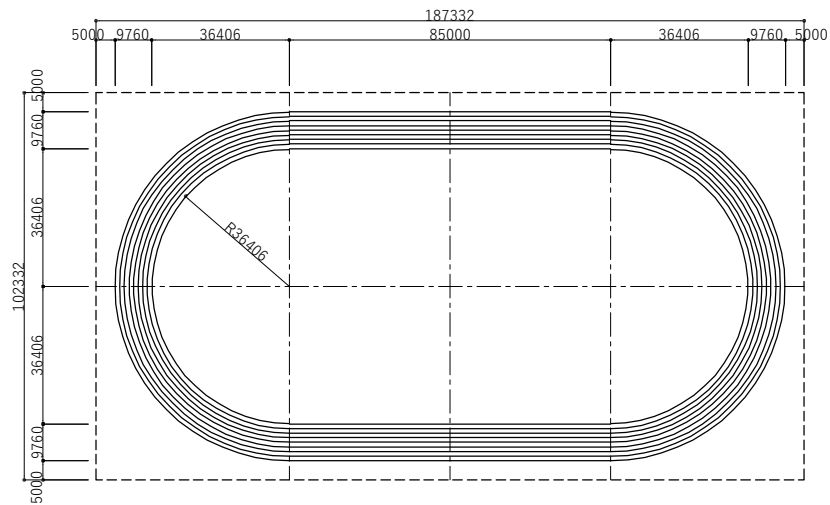
※縁石と走路が同レベルの場合のトラック基本寸法を示す。



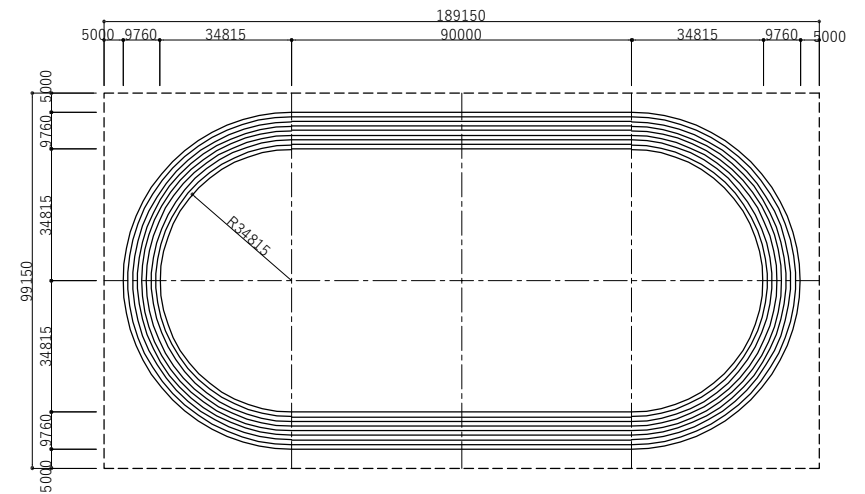
400mトラック8コース (L80.000 R37.998) A=19,574㎡



400mトラック8コース (L84.704 R36.500) A=19,194㎡



400mトラック8コース (L85.000 R36.406) A=19,170㎡



400mトラック8コース (L90.000 R34.815) A=18,754㎡